

午後Ⅱ試験

全問共通

全問に共通して、“論述の対象とする構想，計画策定，システム開発などの概要”又は“論述の対象とする製品又はシステムの概要”が適切に記述されていないものが散見された。これらは，評価の対象となるので，矛盾が生じないように適切な記述を心掛けてほしい。また，字数が少なく経験や考えを十分に表現できていない論述も目立った。

午後Ⅱ試験では，ITストラテジスト自身の経験と考えに基づいて，設問の趣旨を踏まえて論述することが重要である。問題文及び設問の趣旨から外れた論述や具体性に乏しい論述は，評価が低くなってしまうので，注意してほしい。

問1

問1では，改修要望への対応についての多様な論述が見受けられ，ITシステムの改修に携わった経験のある受験者には比較的論述しやすい題材だったと思われる。一方で，改修要望を与件と捉え，システム化要件として掘り下げたものを，“問題の真因”であるとして論述している解答も散見された。全社視点での多面的な分析を行い，経営に貢献し続けるITシステムを実現する上で，解決すべき真因が何かを特定するような論述を心掛けてほしい。また，“特性要因分析”，“AIによる対応”など，分析手法や技術を用いたと記述しつつも，具体性に欠ける解答も散見された。ITストラテジストとして，経営の視点で業務・システムを分析する能力，問題を解決する能力を身に付けてほしい。

問2

問2では，インシデントに備える施策の検討として，予防策と発生時対策から成るシステムリスク対応方針が具体的に示された論述が多く見受けられ，経験のある受験者には論述しやすかったと思われる。一方で，インシデントが社会や自社の経営に与えるインパクトについて，具体的な内容が示されていない論述も散見された。ITストラテジストは，システムリスク対応方針の効果を十分に検討し，事業部門と経営層に提案して承認を得られる分析能力や評価能力を養ってほしい。

問3

問3では，多くの論述は具体性があり，革新的な製品企画を立案するに当たって，プロダクトイノベーションによるアプローチを行った経験のある受験者には，論述しやすかったと思われる。一方で，対象とする製品の概要が不明瞭な論述，提案に対しての評価が述べられていない論述も散見された。組込みシステムのITストラテジストは，製品企画を立案する際には，アプローチによる市場・競合他社の動向調査結果，収集した最新の技術情報を基にした製品戦略を実践する能力を養ってほしい。